

そうぞう 想像×創造=∞

流山市立おおぐろの森中学校

1学年だより 1月号

令和7年1月27日発行

入学してから早10か月が過ぎ、1年生も残すところあと2か月になりました。入学してすぐは、右も左もわからず、体育館に行くのですら、迷っていたことをとても懐かしく思います。今では、学校生活にも慣れ、自分の役割に精一杯取り組んだり、生活をよりよくするために新しい活動を提案したりするなど、自律した行動が多く見られるようになります。頼もしさを感じられます。生徒の会話には、「2年生のことが話題に上がるようになりました。つい最近入学したばかりの気がするけどもう2年生か。」「もう少しで1年生が入って先輩になるんだね。」「1年生に教えたりできるかな?」。次年度に向けて、生徒は期待と不安を抱えているようです。2年生で良いスタートがきれるよう、1学年職員一同、3学期もより一層、生徒のサポートに励んでまいります。

現在、1学年は2月7日の校外学習に向け、部会ごとにしおりの作成や、班ごとに行動計画の作成に励んでおります。班ごとに行動計画を話し合う中で、「朝は何時に集合しよう。」「お昼どこにする？何食べたい？」「これだけは絶対に食べたい。」といった、校外学習を楽しみにする声がたくさん聞こえます。当日もぜひ、級友と親交を深め、楽しい思い出を作っていくって欲しいと思います。



今回の校外学習の目的は「震災学習」です。みなさんは、日本で1年間に何回地震が起きるかご存じですか？実は、1年間で1,000～2,000回もあり、多いときは1万回も起きる年があります。なぜ、ここまで地震が多いのでしょうか？その原因是、日本が位置する場所にあります。地震は地下で起きる岩盤（プレート）の「ずれ」が原因で生じます。岩盤（プレート）には押されたり、引っ張られたりする作用があり、これにより急激にずれが生じ、大きな揺れをもたらします。日本はなんと4つのプレートの境目に位置するため、世界的に見ても地震が多い地域なのです。これから先、日本で生きていくために、地震について知り、対策をしていくことが欠かせません。そのために、総合的な学習の時間では、地震についての調べ学習を行っておりまます。ドイツの政治家であり、鉄血宰相と呼ばれたビスマルクは言いました。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」。歴史とは人類が長い時間軸で熟成した叡智の結晶です。校外学習の震災学習を通して、先人の知恵を学び、これから的生活に役立てて欲しいと思います。校外学習では、浅草寺とスカイツリーに行きます。この二つに共通する地震対策について説明していきたいと思います。

ひとえに地震対策といっても様々な手段があります。建物における地震対策は「耐震」「免振」「制震」の3種類です。今回注目していきたいのは、「制震」です。制震とは、建物内で地震の揺れを吸収する構造です。建物の内部にダンパーや重りなどで構成された制震装置を設けて、地震による揺れを小さくします。この制震構造は、スカイツリーにも採用されており、塔の中心部にコンクリート製の円柱「心柱（しんばしら）」を構築することで、地震の揺れを塔内で吸収することができます。実は、この心柱の構造は、五重塔を基に設計されました。



1,000年の時を超えて、生きられる先人の知恵。日本が世界に誇る電波塔は千年前の建築技術があったからこそ、作ることができました。歴史を学ぶと様々なところで活用することができます。今回の校外学習を通して、実際に見てることで、先人の知恵や地震対策の必要性について学んでいってほしいと思います。